

検討会議委員への意見照会結果

頁	項 目	委員名
	表紙・はじめに	
(1) 加除修正に関する意見		
	○ この答申文全体において、高校生と小・中学生を含めた内容については「子どもたち」とし、高校生に関する内容については「生徒」と区別しているが、この答申文自体は高等学校についてのものであるから「生徒」あるいは「高校生」で良いのではないか。特に副題の「未来を担う子どもたちが」は「未来を担う高校生が」ではないかと思う。	相馬委員
	○ 「はじめに」の11行目「自身の能力を可能な限り発展させ」とあるが、「能力を発展させる」という表現はどういうことか。	高橋（公）委員
	○ 「はじめに」の脚注※1について、引用文ではあるが、「英国の研究者」「米国の」「米国の研究者」「米国の」が連呼されると、海外が強調されすぎて違和感を持つ。注釈なので重要ではないが、例えば、下記のように修正できないだろうか。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">教育再生実行会議（第6次提言）では、「今後10～20年程度で、米国の47%の仕事が自動化される可能性が高い」「2011年に米国の小学校に入学した子どもたちの60%は、大学卒業後、今は存在していない職業に就く」と研究者の予測を紹介し、「この問題は日本でも無縁ではない」としている。</div>	小磯委員
(2) その他「答申（案）」に関する意見		
	○ 「単なる生徒減少への対応策ではない」ことを「はじめに」で明確に述べていて、適切である。	高橋（公）委員

頁	項 目	委員名
2-4	第1 県立高等学校将来構想の検討に当たって	
(1) 加除修正に関する意見		
2	○ 4つ目の○に「他者と助け合いながら幸せな暮らしを営むことのできる力を育む」とあるが、「はじめに」にある「将来への可能性を秘める子どもたちが（中略）夢や志の実現に向け逞しく挑戦し続ける力を育成するため」や「子どもたち一人一人が夢や志の実現に向けて成長することのできる高等学校教育」とでは、少し表現の釣り合いが取れない感じを受ける。	相馬委員
2	○ 脚注※2の普通科等の順序が「普通科、理数科、英語科、外国語科、表現科、スポーツ科学科等」となっているのに対し、p6の順序が「①普通科、②理数科、③英語科・外国語科、④スポーツ科学科、⑤表現科」となっているため、整合性を取るために脚注の表現科とスポーツ科学科の順序を入れ替えた方が良いのではないか。	鈴木委員
(2) その他「答申（案）」に関する意見		
3	○ 国際的な視野を持ちながら郷土に誇りを抱くことは重要だと思う。	高橋（公）委員

頁	項 目	委員名
5-13	第2 学校・学科の在り方	
(1) 加除修正に関する意見		
8	<p>○ p7の「①農業科」では「寄宿舍の活用などによって、より広い地域から入学者を受け入れることが可能となる方法を検討する」と明記しているが、青森県の今後の方向性を示すうえでとても重要な文言だと思う。青森県は第1次産業が主の県である。第1次産業における生産性を高めていかないと県としての存続が危うい。そういう中、将来の担い手育成として、高校における農業科は重要な学科である。しかしながら生徒数の減少の中、農業科を県内各地に設置することは不可能であり、農業科の学校を数多く設置するよりも、内容の充実を図るべきである。</p> <p>そういったことから、水産科においても、「引き続き寄宿舍を設置」の文言の明記は重要と考える。</p>	小山内委員
9	<p>○ 「⑤家庭科」の2つ目の○について、「『食』や『服飾』などの専門分野の特色ある学習を通して、これからの時代に必要となるコミュニケーション能力や課題解決能力などを育む」とあるが、「コミュニケーション能力」よりは、「QOL（生活の質）」を高める力の方が適切なのではないか。ここで、「コミュニケーション能力」につなげるのは、違和感がある。</p>	小山内委員
11	<p>○ 「(1) 全日制普通科単位制」の「(現状)」について、前段までの文面は、肯定的であるのに対して、後段は「幅広く設定された科目から自由に選択できる単位制の利点を十分に活用した取組は、広がっていない」と、課題提起しているように思う。</p> <p>であれば、後段冒頭の「また」は、「しかし」あるいは「しかしながら」という接続詞の方が適切ではないか。</p>	小山内委員
11	<p>○ 「(1) 全日制普通科単位制」の「(現状)」にある「県内の導入校3校では、いずれも国公立大学進学志望者が多く」という事は事実なのだろうが、「進学を重視した教育課程を編成」という意味なら、「国公立大学」として「私」を入れるか、単に「大学進学志望者」と表現するべきではないかと感じる。学費に関する経済的な面を含める必要はないし、国公立が上位との認識も誤りではないか。</p>	小磯委員
(2) その他「答申(案)」に関する意見		
10	<p>○ 質問であるが、「(3) 総合学科」の「(今後の方向性)」に、「さらに、総合学科以外の学校・学科を総合学科に転換することについては、今後の生徒のニーズ等を踏まえ検討する必要がある。」とあるが、この文面は、ニーズがあれば総合学科を増やしていこうという意向なのか。「転換」という言葉からそのように感じる。</p>	小山内委員

頁	項 目	委員名
14-19	第3 学校規模・配置	
(1) 加除修正に関する意見		
14	○ 「①各地区における中学生の進路の選択肢の確保」の「(今後の方向性)」に「6地区毎に」とあるが、「6地区毎に」大学等への進学や就職等より幅広い進路選択に対応する高等学校、選抜性の高い大学への進学に対応する高等学校、職業教育の中心となる高等学校を配置すると受け止められないか。 p18「(現状)」も含め、「6地区それぞれに」とすべきではないかと思う。 併せて、p14「(今後の方向性)」の3行目「それぞれの役割」を「各役割」に変更してはどうか。	小磯委員
(2) その他「答申(案)」に関する意見		
16	○ 重点校に併設型中高一貫教育を拡充する試みは、是非検討すべきである。	高橋(公)委員
18	○ 質問であるが、「(1) 学校配置の考え方」の「(今後の方向性)」について、これまでの「協議会等を設置する」から、「機会を設ける」という文言に修正したことは、必ずしも「協議会」を設置するわけではなく、もっと幅広い、柔軟な意見聴取の場を設けたいという意図があるのか。	小山内委員

頁	項 目	委員名
20-26	第4 各地区の学校配置等に関する基本的な方向性	
(1) 加除修正に関する意見		
	なし	
(2) その他「答申(案)」に関する意見		
20-26	各地域でその地域の産業構造に合わせて拠点校の設置を検討したと思うが、オール青森として「商業科」の拠点校が東青地区だけで良いか。	三上委員

頁	項 目	委員名
27-30	第5 魅力ある高等学校づくりに向けて	
	(1) 加除修正に関する意見	
	なし	
	(2) その他「答申(案)」に関する意見	
29	<p>教員の資質向上や教員定数の事については、会議でもその必要性についての意見が多数あった。</p> <p>高等学校の生徒を指導することの根本には、将来、就職して給料を得て税金を払い、かつ結婚して子供をもうけるという、県や国を支えていく人材を育てるという大きな使命がある。(大学へ進学しても最終的には就職するわけであるから)。</p> <p>生徒の数が減少したから教員の削減をするという発想ではなく、人口が減少しているのであれば指導を手厚くし、有為な人材を多く育成する機会であるととらえるべきである。</p> <p>総合学科における多様な選択科目の開設や普通科における単位制の導入について、教員数の不足によってその機能を十分に果たせないでいる状況もある。今後、重点校、拠点校の設置にあたっては教員の資質、定数等について同様な問題が生じることが懸念される。</p> <p>このようなことから、県教委においては教員の削減に関する問題には慎重に判断していただきたい。</p>	相馬委員

頁	項 目	委員名
31	おわりに	
	(1) 加除修正に関する意見	
	なし	
	(2) その他「答申(案)」に関する意見	
31	<p>○ 「各高等学校の取組を支えるのは教員一人一人」であり、「教員の力量こそ、最も重要な要素」であるとは県民誰もが納得するところであろう。前章にも「日々生徒に接する教員一人一人の指導力によるところが大きい」としており、本会議のメッセージが強く伝わる構成になっている。</p>	高橋(公)委員